大阪・関西万博「コロナの試練」

図書館の休館が続いて、定期的に行ってきた新聞チェックができないのが辛い。先日、仲間の皆さんのご厚意で、久しぶりにチェックできた。

写真は日本経済新聞 4 月 13 日夕刊の大阪・関西万博を巡るスケジュール。「万博まで 5 年 コロナの試練」と現状を伝える。抜粋して紹介したい。

13 日で開幕まで 5 年となった 2025 年国際博覧会（大阪・関西万博）に、新型コロナウイルスが影を落としている。東京五輪・パラリンピックが 21 年夏に延期され、20 年 10 月開幕のドバイ万博（アラブ首長国連邦）も 1 年延期を検討。新型コロナが猛威を振るう中、開催までの道のりは厳しいが、専門家は「『感染症との戦い』に解を示す万博に」と期待する。「延期になれば、各国への参加要請も別の手段を考える」。万博の運営主体である日本国際博覧会協会の石毛博行事務総長は 1 日、ドバイの延期検討を受け、困惑した表情で語った。

ドバイ万博は約 190 カ国・地域の参加を見込む。大阪万博への参加要請を一気に進める絶好の機会で、延期となれば今後のスケジュールへの影響も大きい。2025 年大阪万博は 150 カ国・地域の参加、期間中の来場者約 2800 万人を想定。東京五輪・パラリンピック後の国家プロジェクトとして政府は 2 兆円の経済効果を見込む。

経済産業省は 19 年 12 月、開催期間やテーマ、入場者数などを盛り込んだ「登録申請書」を博覧会国際事務局(BIE、本部・パリ)に提出。20 年 6 月の BIE 総会で承認を受けた後、ドバイ万博に担当者を派遣する予定だったが、BIE の本部があるパリなど欧州も混乱し、6 月の総会開催の可否も判然としない。

参加要請が先に延びることで懸念されるのは、会場の詳細設計の遅れだ。パビリオンの配置を固めるのは、すべての参加国・地域が固まった後になる。協会は 20 年秋にも会場建設やインフラ整備などを盛り込む「基本計画」を策定する方針だが、影響は避けられない。建設業界からは「早期に基本計画を示してもらわないと、工事に着手できない」との声も上がる。

このあと、新型コロナの終息は見通せず、資金面でも不透明感が漂うと。17 日に、大阪万博を所管する経済産業省の近畿経済産業局に緊急申し入れを行ったが、ここでも担当者から「コロナの試練」を感じた。いまは万博どころではない。日経記事で注目したのは、BIE 総会開催の可否、ドバイ万博の 1 年延期、「基本計画」策定の時期である。とにかく夢洲での 2025 年大阪万博開催は抜本的な見直しが避けられないであろう。

(2020 年 4 月 23 日)